

2020年度(令和2年度) 日々の教育・保育の指導に関する留意点・評価 自己評価

	項目	評価・取り組み状況
教育・保育 (健康 人間関係 環境 言葉 表現)	1 生理的な欲求を満たし生命の保持と情緒の安定を図る	少人数に分かれての活動をし、関わりを十分に持つ。愛着関係のもとに構築される個々の思いや気持ちの寄り添い受け止める。・マンパワーの補充。年齢や発達に合わせて考慮した関わりを行う。
	2 行動範囲が広がり探索活動が盛んになり心身ともに快適な生活をする	子どもの様子、言動をよく見て安全に保育・教育を行う。保育室の整理整頓コーナー等工夫して環境を整える。目配り・気配り・心配り・職員間の情報公開
	3 保育教諭や友だちとのかかわりを深め、自分の伝えたい事や思いを表現する	主体性が発揮しにくいところがあるので遊びを進めていく上での工夫が必要選択肢を持たせ、自己発揮できる機会を作る
	4 保育教諭や友だちとのつながりを深め集団としての行動が出来る	少人数での活動を増やし、それぞれが主体性を持って活動できるようにする生活リズムを作り、個々が自分から進んでできる環境をつくる異年齢との関わりの中でのつながりができている
	5 集団生活の中で、意欲的に活動し知識や能力を獲得し達成感や充実感を味わう	発達段階に応じた遊びの研修。様子に合わせて環境設定を行っていく子ども達の思いを丁寧に受け止めていく子ども達が自主的に遊びが展開的できる環境作りの工夫
	6 環境を通じた教育及び保育活動の充実	集団生活で自分が出せない子が自分を出せる場を作り自主性を促せるようにする身の回りがある環境が発達に反映されるため、様々な経験ができるようにする「自分でしたい」という気持ちを大切に一人ひとりの発達に合った関わりをしていく
情報 人材 提供 育成 公共 機関 との 連携	7 特別な配慮が必要な園児の指導	専門機関に通所した後の連携 関わり方・指導の仕方の連携 一対一での関わり 必要に応じた援助
	8 家庭・地域社会との連携	コロナ禍にありながら、ホームページでの発信等工夫していくファイル、掲示板・保護者との会話等状況把握し適切な援助ができるようにする
	9 職員間の連絡および協力体制	保育の流れと役割分担の明確化 全職員が意識統一できるよう情報の共有 定期的な会議における情報の共有化
	10 小学校との円滑な接続	コロナ禍において機会が減少した 小学校側から園への訪問の機会があるとよい